

あたたかい やさしい たのしい
社会福祉法人かやの実社

さくら保育園



□ 伝える

さくら保育園の新たな歴史

- どの部屋にも専用の園庭
…各年齢専用の小園庭を回廊でつなぐ
- 和室と障子、天窓で自由な採光
…園庭を囲んだテラスで空間と光を演出
- わらべうた、和太鼓、遊びの空間
…文化を伝承する開放的空間
- 地域とのつながり
…地域支援室「ひだまり」で拡がる地域の輪
- 伝統と実績の給食
…日本の伝統に加え地域性を加味した給食
- 雨の日も遊べるプール
…オーニングのある屋外プール
- あそびの空間「岩」
…岩とロープ・ネットで立体的な遊びを演出
- 電子認証セキュリティ
…全ての外門扉が認証セキュリティロック
- 園舎を囲む緑の回廊
…花と緑とビオトープ、手押し井戸

新たな空間と設備

- あそびの空間
…本館を巡るウッドデッキと別館へ続く回廊
- やさしい
…無垢の木材、天然塗料、手漉き和紙障子
江戸簾、玄関のステンドグラス
- あたたかい
…乳児は檜無垢の柔らかいフローリング
幼児は床暖房仕様のフローリング
- たのしい
広々とした多様な保育空間
- 安心
…段差無しのバリアフリーと
- エコ
…太陽光、雨水の再利用、LED照明
自然吸排気による空調
- 多摩産材
…園児用の机と椅子は多摩産材の桜と楓
その他、児童用家具も多摩産材を使用

新しくなった「なつかしい居場所」



環境にも 心にもやさしい

◎ 手漉き和紙の障子と手摺
埼玉県小川町、東秩父村で漉かれています重要無形文化財「細川紙」は、ユネスコの無形文化財にも登録されている伝統和紙です。

◎ さくら保育園では、東秩父村の細川紙技術保持者の女性作家が一枚一枚手で漉いた和紙を使用しました。



◎ 保育室とホールは、深山和紙紙花入りを使用しています。逆光時には紅花のアクセントの美しさが映えます。ホール二階の手摺には越前和紙雲龍を強化ガラスに挟んで使用しています。職員室の障子には同じく雲龍を使用しています。



◎ ステンドグラス

◎ さくら保育園の玄関の両側にある小窓にはステンドグラスが飾られています。このステンドグラスは、埼玉県で活躍している女性作家が、桜の花と多摩川の流れをイメージしてデザインし、手作りでせいさくしました。材料は大変貴重な手ふきガラスを使っています。

◎ 冬の夕方、室内の灯に照らされた二枚のステンドグラスが、寒い中お迎えに来られた暖かくむかえま

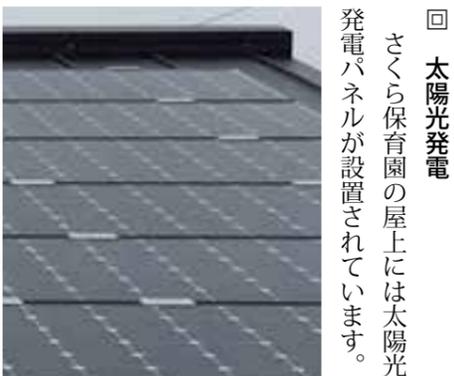


◎ 机と椅子

◎ 保育室の机と椅子は、青梅市の木工作家が多摩産の桜や楓などの無垢材を使って手作りしたもの



◎ で、高級家具と同様の造りと風格があります。椅子や机の表面は天然オイルで仕上げ、柔らかく体に優しい温もりのある手触りです。材料が天然無垢材でオイル仕上げのため、使用中に反りが出たり、汚れが染みこんだりしますが、使うほどに深みと味が出て、未永く使える逸品です。

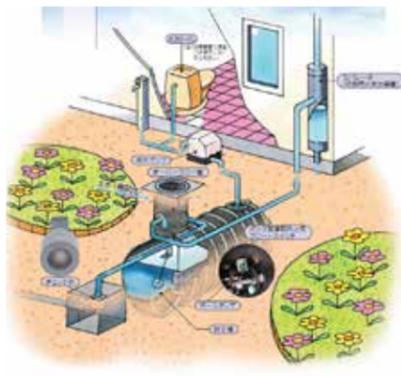


◎ 太陽光発電

◎ さくら保育園の屋上には太陽光発電パネルが設置されています。

◎ 雨水の再利用
羽村でも夏期は水不足で市役所から節水のお願ひなど、地域で節水に努力しています。雨水も貴重な水資源、再利用することで水源の大切さを子どもたちが考える機会にもなります。

◎ 地下タンクに貯蔵された雨水は、花壇、畑、ピオトープ、園庭の散水などに利用されます。また、非常時、災害時にも雑用水として活用します。



たのしい 案内



◎ 3・4・5歳児の部屋

◎ 玄関に入ると正面がホールです。ホールの西と南に用児室が隣接し、全体が一体となって幼児が遊べる広い空間となっています。間仕切りの障子を開閉することにより多様な空間が演出でき、工夫により変化を楽しめ、保育者のアイデアと工夫が発揮できる使い

◎ である空間となっています。



◎ 別館「八角楼」

◎ 本館から渡り廊下を渡ると別館の5歳児室「八角楼」があります。

◎ ここは5歳児が太鼓や工作などをする多目的スペースです。ここから幼児園庭と一体となった遊びの空間が広がります。

◎ その他、地域支援室とともに、地域のサークル活動や保護者会など、多目的に使用します。



◎ わくわくドキドキ「岩」



◎ 園舎本館と別館の間に木製の岩があり、わくわくドキドキの空間となっています。本館から渡り廊下、岩、別館と、リズム感のある空間配置が自慢です。

◎ 岩はスキップフロア構造で、段々に上に上ることができ、上段からは草花丘陵の家式が見渡せる展望台となっております。大人も子どもも楽しめる空間です。また、ターザンロープも設置され、多様な遊びが楽しめます。

◎ 地域支援室「こもれび」

◎ 地域の皆さんの憩いの場、サークル活動、保護者会活動など、多目的に使用できるスペースです。



◎ オーニングテラス

◎ 園舎で囲まれたオーニングテラスは、雨の日もプールが使える、夏の強い日差しを和らげ安心してプール遊びができます。



◎ 低年齢児専用庭とテラス
 さくら保育園では、幼児園庭の他に、低年齢児にも各年齢の遊びにふさわしい専用の小さな庭を用意しています。これらの庭は緑の回廊でつながり、各年齢の交流ができます。



◎ 2歳児の部屋
 2歳児保育室は、琉球畳の予備室とウッドデッキで1歳児と交流できます。予備室と2歳児室の障子を開けると広い空間となり、さらにウッドデッキも一体となったスペースで遊びのバリエーションも広がり、園内でも最も多様性と発展性のある空間となっています。

◎ 園庭
 園庭は植物生態コンサルタントの監修による自然共生の庭を目指し、本館と別館の周囲、用児室から乳児室まで緑の回廊とし、小鳥や昆虫を呼び寄せる設計です。幼児園庭の中央にはシンボルツリーのヤマボウシがあり、子ども達が登って遊べるようになっています。ビオトープには手押しポンプ式の井戸を備え、子ども達も水の管理に加わります。

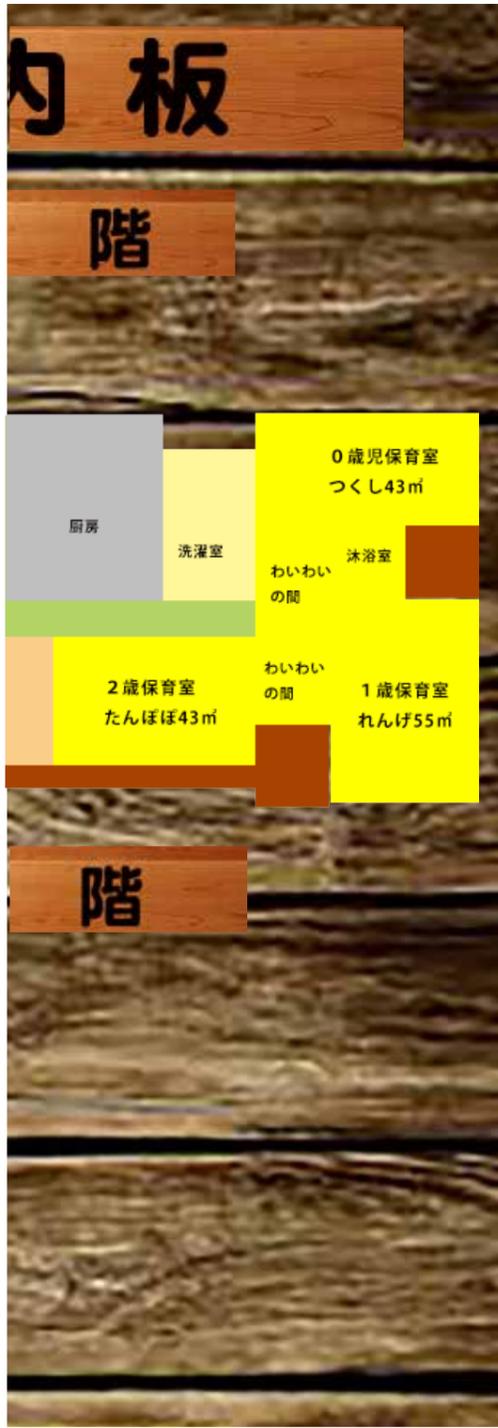


◎ 1歳児の部屋
 1歳児保育室はウッドデッキで0歳児と、琉球畳の予備室とウッドデッキで2歳児と交流できます。ウッドデッキから専用庭や砂場にアクセスでき、多様な遊びが楽しめます。

◎ 0歳児の部屋
 0歳児保育室は檜無垢材のフローリングと江戸畳のスペースがあり、子ども達が寝転んだり、ハイハイしたりできます。天井には採光窓を設けプラインドにより光を調節します。1歳児とはウッドデッキで交流できます。



生活空間



◎ 階段広場「絵本コーナー」
 二階へ上がる階段の下に絵本コーナーとして小広場をつくりました。全体を杉無垢材で囲い、山小屋の雰囲気になりました。お迎えのひとときを親子で絵本を読んで過ごすなど、使い方は様々です。

木と畳と和紙の 柔らかい感触



◎ 室内・屋外環境
 確保保育室はアレルゲンを極力抑えるため材料を厳選し、木と紙と畳を内装に用いました。床は全室床暖房完備の木製フローリングで、一部江戸畳と琉球畳にしています。間仕切り戸は手漉き和紙の障子にして、全体的に純和風の日本家屋をイメージしています。

園全体の照明器具をLEDにしました。型式は蛍光管型、電球型など室内環境に合わせて採用しました。

外壁の大部分をアメリカカンレツドシダーの無垢材を張り、乳幼児にも安心の植物油ベースの自然塗料「オスモカラー」で仕上げました。

玄関から用児室に沿って1歳児室まで、園舎を園側で囲むように木の温もりを感じるウッドデッキにしました。材質は東アフリカ原産のアフゼリアを用いました。アフゼリアは風化してもとげが出にくく、自然木で唯一乳幼児が素足で歩ける素材として知られ、国内ではウッドデッキの他、温泉の洗い場やプールサイド、海岸のウォーキングデッキなどにも使用されています。

室内のカーテンを無くし、かわり園舎の周囲は伝統工芸江戸簾で囲み和の雰囲気を出しました。



◎ 厨房
 ドライ仕様の厨房は衛生的で快適な室内環境になっており、厚生労働大臣賞などを受賞している職員が力を発揮できるようにしています。

廊下に面した厨房の窓を低い位置に設け、職員が働く姿を子ども達が見たり、厨房職員と子ども達が一体となった活動ができるようになっています。

窓の横には一日の食事のサンプルやレシピがショウケースに展示されており、ご家族で参考にしてください。

◎ フローリング
 園内のフローリングは、裸足保育を前提とし、体に優しい材質から選定しました。0歳児保育室は赤ちゃんが寝転んだり、保育士が正座して赤ちゃんをだっこするので、柔らかく暖かみのある檜の無垢材を天然オイル仕上げにしました。傷や汚れが目立ち、変形しやすいのが欠点ですが、体には最も優しい素材です。

その他の保育室には床暖房仕様素材にハードメープル5mm無垢板を張ったもの、廊下には同様にブラックチェリーの5mm無垢板を張ったものを用い、天然オイル仕上げにしました。



回 基本設計コンセプト

地域福祉の拠点として
伝統的日本建築・自然素材
災害時地域の避難所として

・安全・安心のスペース

自然素材のバリアフリー
環境に優しいエコ設計
豊かな保育空間

・「まち」とともにある保育園

景観に溶け込むデザイン
地域に開かれたスペース
園の中心にある厨房



回 園舎の概要

敷地面積 1690.46㎡ (羽村市より無償貸与)
延床面積 931.58㎡
定員 0歳9名, 1歳15名, 2歳16名,
3歳16名, 4・5歳34名, 計90名

・設計施工

設計監理 株式会社象地域設計
建築施工 (株)カトービルドシステム

・費用(暫定)

設計監理 24,632千円
建築施工 295,920千円
※: 仮園舎関連・諸経費と児童用
椅子・机・遊具は含まない。
整備総額 約388,820千円

回 伝統工芸 江戸簾

園舎外観の大部分を伝統工芸「江戸簾」で囲みました。使用した簾は全て国産素材を用い、国立劇場や歌舞伎座などの手編み簾を作っている伝統工芸士の手作りで、南北を御形、西側を茅、ウッドデッキを葦、室内をやきひごを使って制作しました。

各部位に最適な素材を使うことにより、夏の室内を涼しく快適な温度に保つとともに、視界を柔らかく遮り、昼夜を問わず優しく落ち着いた室内環境、外観を保ちます。冬には室内へ差し込む日光の調節や視界のコントロールに役立ち、一年を通じて快適な環境をコントロールします。

